

# 健康通信 しずおか

No.68

2019  
3月

TRANSITION TO HEALTH (068)

## 電磁波環境と健康被害 ④

～ スマホでわが子の脳を調理するママたち ～

### はじめに

最近、右図のような光景をよく見かける。若い母親がわが子をいわゆる抱っこ紐でからだの前に抱き、スマートフォンを操作しながら街を歩き、公園で日向ぼっこをしている。抱っこ紐で両手が空き、自由自在にスマホを操作できるのである。

かつてイギリスのメディアは『携帯電話はあなたの脳を調理する』(The Sunday Times)と警告していた。今では「携帯」から「スマホ」に移行してきており、「スマホ」はガラ系の数百倍も電磁波が強いといわれ、赤ちゃんの脳への損傷がさらに危惧される。細胞分裂が極めて盛んで発達途上の赤ちゃんの脳に、強い電磁波を直接浴びせてしまって大丈夫なのだろうか。いや、大丈夫なわけがないであろう。

「スマホ、LED ライトなど、人工的に作り出された電磁波に因るマイナス(害)をプラス(益)に変える、健康被害を無くす。」と期待できる技術:生体エネルギー<sup>®</sup>技術を応用した機器が既に商品化されていることは、過去3回にわたってこの「健康通信しずおか」で伝えてきた。健康被害を回避する生体エネルギー<sup>®</sup>技術の存在を知ら

ずに、スマホを通常電源で充電して長時間使用しては、抱かれている赤ちゃんは近い将来、最悪の場合には脳腫瘍や白血病になってしまうか、よくても記憶・思考障害のため、小・中学生になってから成績不良に悩むのかもしれない。

### 電磁波の健康被害のおさらい

ここで、今までのおさらいをしておこう。国立環境研究所は2003年、4mG(ミガウリ)以上の電磁波環境の場所で暮らす子どもは、0.5mG未満の場所で暮らす子どもに比べ、小児白血病が4.73倍増加、脳腫瘍が10.6倍も増加すると警告した。

また、WHO(世界保健機構)は携帯電話使用の危険性・発癌性について、1日30分10年間で、成人で脳腫瘍が1.4倍に増加、小児・若年者では5倍にも増加すると警告した。ヨーロッパ47か国の多くの国々では、16歳以下の携帯電話の使用を既に「禁止」もしくは「緊急時のみの使用」としているという。日本では未だ、小児・幼児の携帯電話・スマホの使用制限の動きが見られないどころか、逆に、学校へのスマホの持ち込みを



### 赤ちゃんの脳は 大丈夫？

国立環境研究所 発表(2003年)

4 ミリガウス以上  
の場所で暮らす子どもは  
0.5ミリガウス未満の場所で暮らす子どもに比べ  
白血病 … 4.73 倍  
脳腫瘍 … 10.6 倍

携帯電話の発癌性 WHO警告

IARC 国際がん研究機関2011年5月31日

悪性脳腫瘍の発生  
1日30分、10年で

成人 … 1.4 倍  
若年者 … 5 倍!  
(幼少期より使用)

公益財団法人 静岡県産業労働福祉協会

〒421-0113 静岡市駿河区下川原 6 丁目 8 番 1 号

TEL054(258)4855(代) FAX054(258)4403

http://www.kenshin-shizuoka.net

E-mail:info@kenshin-shizuoka.net

容認する動きが出てきており、一部の教育関係者の間では「最悪な状態になりつつある」と危惧されている。

昨年、東北大学加齢医学研究所所長の川島隆太氏は、著書『スマホが学力を破壊する』（2018年3月出版）の中で、平成25年度の仙台市立中学校に通う全生徒2万2390名のデータを解析して「家庭で2時間以上一生懸命まじめに勉強しても、スマホを1日4時間以上触っていると、点数で15点（数学の場合）、**偏差値は10も低い**。スマホは触らないが、家では全く勉強しない生徒よりも成績が悪い！！」「**スマホをやめるだけで偏差値が10上がります**」等々、報告していた。スマホが発する電磁波が**脳に障害**を与え、思考や記憶の中樞を**損傷・破壊**している可能性が示唆された。（健康通信しずおか No.67 電磁波環境と健康被害 ④ ～ スマホで学力低下・脳の破壊？ ～ 参照）

## 「生体エネルギー<sup>®</sup>技術」に救われた私の「電磁波過敏症」

かつて私は、携帯電話を左耳に当てて通話をする、耳の奥深くに熱を感じ、「キーン」と痛みだした。同時に左眼に違和感を覚え、充血し涙が流れてきた。とても1分以上通話できる状態ではなかった。そのためイヤホンマイクを使ったり、スピーカーフォンにして通話していた。そんな私の症状を医学的には『電磁波過敏症』というのだが、実は、私は『電磁波**正**敏感症』であって、何も感じない多くの人たちが『電磁波**鈍**敏感症』ではないかと思っていた。そんな時、**生体エネルギー研究所**（長野県東御市）の『生体エネルギー<sup>®</sup>技術』を応用して、ICI（アイ・シー・アイ）研究所が携帯電話用誘導翻訳器『**天音**』という充電装置を開発した。この『**天音**』で充電すると、耳に当てて30分以上通話しても何の症状も出なかった。『**天音**』が過敏症（本当は正敏感症と言いたいのだが）の発症を抑制してくれたのだ。携帯電話の電磁波のマイナス（害）をプラス（益）に変えてくれたのだ。その後、ICI研究所が、スマートフォンの普及に伴い、スマートフォン対応の誘導翻訳器『**天音S**』（右写真）を開発したので、いよいよ私も「スマホデビュー」ということになった。購入したばかりのスマホをショップ内で耳に当ててみると、電磁波がガラケーの数百倍も強いための耳に当てた瞬間、左耳奥を中心に頭部左半分に“もわ〜”とした熱感・浮遊感・ふらつき感を覚え、『**今、脳が調理されている！！**』を実感させられた。



もちろん今は『**天音**』『**天音S**』を連結して充電しているが、直接耳に当てての通話は避けてメッセージの送信を主にし、通話はおっぱらスピーカーフォン、周りの人に聞かれない時はエアチューブ型のイヤホンマイクを使っている。私にとって『**天音**』『**天音S**』の恩恵は絶大なるものなのだが、如何せん、スマホの電磁波は私にとってはあまりにも強すぎるので、耳に当てての通話はしていなかった。

### ★ スマホの電磁波は強烈！ 私は飛蚊症をおこしてしまった

ある時、緊急の連絡を受けた為、スマホを直接左耳に当てて数分間話してしまった。左眼に違和感を覚え「**しまった！！**」と思った。“飛蚊症”を起こしてしまったのだ。その瞬間を生々しく覚えている。スマホの強力な電磁波により私の左眼球の硝子体というゲル状物質が変質してしまったようであった。こんなに強力なスマホの電磁波ならば、仙台市の市立中学校生の“**脳の思考や記憶の中樞を損傷・破壊して、偏差値を10も下げてしまう**”のも無理はないと納得した。

## スマホ使用に必要な「リスク管理」

「スマホ決済」「電子決済」「電子チケット」等の流れはとどまることなく、後戻りすることはないであろう。また、「防災情報」「安否確認」など**緊急連絡手段**としての携帯電話・スマホの**有用性**は非常に高いと考えられる。この便利で快適なツール：携帯電話・スマートフォンの電磁波に「**発がんの危険性**」「**学習障害の危険性**」があるのならば、“**極力安全に使う方法を模索・追及すべき**”ではないだろうか。細胞分裂の盛んな発達途上の子ども達については特に。

現在日本では、「超高齢化」では説明がつかない「**癌の増加・低年齢発症**」が起こっている。「食生活の欧米化」「運動不足」などの「**誤った生活習慣の継続**」が「**癌急増**」の主な原因だと私は思っている。「肉の**過剰**摂取・食物繊維不足・運動不足」で大腸癌が、「牛乳・乳製品（特にチーズ）・牛肉の**過剰**摂取」で乳癌が急増しているものと考えられる。

今後は『スマホの使い過ぎ』で『学力低下』ばかりでなく、『白血病』『脳腫瘍』までもが急増してしまうのだろうか。

## おわりに

「データはあるのか？」「エビデンスは？」などと悠長な事は言っていられない。赤ちゃん・子どもたちには罪はないし、待っている時間もない。『**発がん性**』『**学力破壊**』の危険性が報告・警告されているのだから、私たち大人が賢く判断し『**リスク管理**』すべきである。その一つの選択肢として、私は「**生体エネルギー<sup>®</sup>**」技術を紹介しているのである。“**わが子の脳を調理する**”ことはくれぐれもしないように、特に若いママたちには、お願いしたいものである。